

民主島根

2022年
10.23
第1414号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

旧統一協会との関係追及 細田議長は国会で説明せよ 新婦人が松江市内で抗議行動



プラカードをかざし、市民にアピールする参加者(松江市)

細田博之衆院議長に対し、統一協会との関係を全て明らかにし、今後一切の関係を断つことを求める抗議行動が、新日本婦人の会島根県本部(山崎泰子会長)の呼びかけで3日、松江市で行われました。JR松江駅前に17人が集まり、山崎会長の挨拶に続き、6名が次々にリレートーク。

2カ月前に細田事務所に要請書を持参した同会の舟木明美事務局長は「9月29日になってようやく細田氏が文書を発表したが、反省も納得いく説明もなし。衆院議長として自らの言葉で説明する責任がある。細田氏の地元・島根から徹底追及の声を上げよう」と訴えました。

自らも信仰をもつという女性は「不安を煽り、



約90人の参加者を前に議会報告する尾村県議(松江市)

高額献金をさせるなど多くの被害者を生んできた統一協会。宗教の名によってそんなことがされるのは許しがたい。そのような団体と関わったことを反省できなければ、一切の関係を絶つことなど

危険な原発は動かすべきではない

尾村氏が松江、大田氏が出雲で報告

日本共産党県議団は、尾村利成県議が9日に松江市内で、大田陽介県議が15日に松江市内での「県政報告会」を開きました。

■松江

尾村県議は、現行の島根原発の避難計画は「事故時、入院患者は山陽3県へ転院し、コロナ感染拡大などでベッドが不足すれば四国、関西の病院



県政報告会で旧統一協会問題など報告する大田県議(出雲市)

できるはずはない」と怒りを込め発言。足を止めてプラカードの言葉にうなずく女性がいるなど注目を集めました。同会は抗議行動に先立ち、細田事務所を訪ね、要請書を手渡しました。

「医師」は、国の医療費削減路線で苦しむ患者の実態を語り、「県政は国の悪政の防波堤の役割を果たして」と話しました。

松江市内の河川で外来種ミシシippアカミミガメを約6千匹駆除した市民団体「まっせりの会」の遠藤修一代表は「市民と行政の協力が重要。引き続き力を貸してほしい」と訴え、小田一政副代表は「尾村県議の質問は迫力満点だった」と語りました。

松江市議団は、旧統一協会の関連団体から松江市が寄付を受けていた問題や教員不足問題などを報告しました。

日本共産党演説会

12月18日(日)

10:00~ 松江テルサホール
14:00~ 出雲ロイヤルホテル 平安の間

弁士 党書記局長(参院議員) **小池 晃**

【松江会場】 県議会議員 **尾村としなり**
【出雲会場】 県議会議員 **大田陽介**

私たちもお話します



■出雲

大田県議は、旧統一協会の関連団体(平和大使協議会)の構成員だった県議(現職、元職)や町長、市議、町議がいることを告発。関連団体の「人格教育協議会」が毎年、

シンポジウムが開催し、県教委と松江市教委が後援していたことを報告しました。

また、原発問題について、岸田首相が8月24日、次世代型原発の開発や建設を検討する方針を表明したことにふれ、「仮に、原子力規制委員会で審査中の島根原発3号機が新規稼働することになれば、廃炉を含め、今後100年間にわたって原発と付き合うことになる」と指摘。「2号機再稼働の撤回と3号機の新規稼働は絶対に許さない立場で、引き続きしっかりと論戦していく」と訴えました。

出雲市議団は、8月に旧統一協会や関連団体と関係を持たないよう、市と市議会に申し入れたことを紹介。「国葬」の弔意強制の中止や、マイナンバーカードの問題などを質問取り上げたことを報告しました。

鼓動

コロナ禍で在宅勤務が広がり、職場でのコミュニケーションも対面や電話から「LINE(ライン)」などのチャットに移りつつある。最近、LINEなどチャット機能のあるSNSで中高年が公私でよく使う文体が「おじさん構文」と呼ばれ、話題らしい▼「絵文字を1文に1個以上入れたら、片仮名を多用した長文」が特徴。Z世代ではウケ狙いでわざと多く絵文字を使うなどして、おじさん構文を真似てLINEを送り合うこともあるという▼チャットは「おしゃべり」を意味する英語でネット上で会話するように文字を送り合う。若者は「あいさつ文」を入れず、用件のみを簡潔に素早く伝える。感情表現では絵文字ではなく、喜怒哀楽を表した「スタンプ」というイラストを使うことが多く、中高年とのテンポの違いと長文に若者は違和感を持つのかも。◆昭和女子大(メディア論)の天笠邦一准教授は世代で異なるコミュニケーションのとり方について「長所短所を知り、目的に応じて使い分けを。公私ともにすぐに返信がほしい時は簡潔な表現、送った文章から色々と考えてほしい時は長文にするなどの切り替え」を提案する▼「ガラケー時代の名残では」と分析するのは成蹊大学(情報リテラシー)の高橋暁子客員教授。「1990年代後半〜2000年代は私的なやり取りもメールが基本で絵文字を使わないと『黒メール』と怖がられた。おじさん構文は若者への気遣い、優しさが現れている」と指摘する。若者がおじさん構文を受け入れ、特有の表現を楽しんでいることは中高年に対する気遣いなのかも。(遠)